

令和7年度 第2回 長野市立博物館協議会 議事録

日 時 令和8年2月3日(火) 午後2時～午後3時30分
場 所 長野市立博物館 2階 会議室
出席委員 相澤委員・浅倉委員・大橋委員・大串委員・橋詰委員・峯村委員・宮下委員・
山貝委員 (欠席：二星委員)

1 開会

2 あいさつ (館長※石坂部長の代理)

3 会議事項 (議長 宮下会長)

(1) 協議事項

(ア) 令和8年度長野市立博物館事業計画(案)について (陶山係長)

- 資料 (長野市立博物館 令和8年度事業計画(案)、全13ページ) にて説明
(橋詰委員) 「P12 VIII『友の会事業』について、高齢化によって、活動の継続、参加が難しくなっている。ぜひ、事業について宣伝していただきたい。」
(陶山係長) 「宣伝については、チラシを作成して公民館に配布したり、広報ながのに掲載したり、最近ではインターネットを利用している。友の会と相談しながらやっていきたい。」
(宮下会長) 「若い人が入会して事業を継承できるようにしていただきたい。広報活動では、ぜひ声かけをしていただきたい。」
(大串委員) 「今年度行われた戦後80年展のように、市民の学習活動、同好会の研究活動や成果を博物館が受け止め、展示に活かす工夫をしていく必要がある。そういった取り組みが活動のやる気につながっていくと思われる。」
(宮下会長) 「財団の研究団体もあるので、連携していくことも大事である。」
「ヒラバヤシシカは、どこに所蔵されていて里帰りするのか。」
(畠山補佐) 「国立歴史民俗資料館に所蔵されている。来年度の特別展オントケトゥス展に合わせて借用する予定である。」
(相澤委員) 「庶民の生活文化を資料として残していくという観点で、地元に残された資料を保存していく必要がある。これからの博物館として、長野市として、庶民の生活を伝える資料について、こういった収集戦略があるのか。」
(樋口主査) 「資料の収集に関して、地域においては膨大な資料があり、未だ把握していない資料の情報については把握することに努めていく。また、把握していない資料がありましたら教えていただきたい。とは言え、収蔵庫が無限にある状態ではないので、優先順位とまでは言わないが、テーマを決めて重

点的に収集していく。ただ、テーマだけではなく、長野市の歴史に重要なものといった視点と、両方の視点から資料の取りこぼしの無いよう、持続不可能にならないよう収集していく。」

(イ) 博物館の使命について(成田補佐)

資料(長野市立博物館の使命(修正案、修正版新旧対照表))にて説明

- (浅倉委員)「長野市立博物館の使命(修正後の案)について、修正前の案にあった『戦争』という単語が消えている。『戦争』という単語を入れることを提案する。」
- (檀ノ原館長)「『戦争』という単語を使用することが、長野市独自の歴史を表現することができるようであれば参考にさせていただきたい。」
- (大串委員)「『戦争』という単語を入れたほうがいい。自然災害だけではない。戦争は45年で終わるわけではなく、その後の生活難を含めて庶民の生活、目線からみた戦争について考えたいという思いがある。」
- (宮下会長)「横田河原の戦い、松代大本営など、長野市は古代から『戦争』という問題がついてまわる地域である。」
- (橋詰委員)「修正案は山岳と水系に恵まれたバラ色の長野市という感じであるが、庶民は苦難を乗り越えてきた。今から考えると苦難の連続だったという気持ちである。」
- (相澤委員)「戦いの歴史の中で庶民は何をしてきたのか、これからの先をどう生きるか考える必要がある。私たちは以前、川中島の戦いと観光を結びつけていたが、別の部分で触れることもできる。」
- (大橋委員)「長野市の歴史の部分、地形や人の営みについて発信する必要がある。」
- (宮下会長)「地形の説明部分では象徴的な『フォッサマグナ』が消えている。」
- (檀ノ原館長)「『フォッサマグナ』は長野市独自ではなく糸魚川などを含む広域的なものを連想させる。『戦争』についてはご意見をいただいたので、表現していきたい。修正の趣旨とし、使命が長野市の紹介にならないように、考慮した。」
- (宮下会長)「フォッサマグナがあったからこそ、信州新町化石博物館と戸隠地質化石博物館の二つの博物館が成立した。長野市にとってフォッサマグナは重要な言葉である。多くの人がフォッサマグナは糸魚川静岡構造線と誤解を招いている。そういったことを正していく必要がある。」
- (峯村委員)「博物館運営方針 4について、博物館が地域の活性化につながるのか。」
- (檀ノ原館長)「博物館改正法で新たに加わった項目の中に『地域の活力の向上に取り組むこと』とあり、非常に重要なファクターであり、ひとつの柱としなければいけないと考え、定めた。」
- (山貝委員)「修正後の案について、すっきりして文章がわかりやすくなった。」
- (大串委員)「文章が分かりやすくなった半面、スローガンのようになってはよくない。」

(宮下委員)「博物館の使命は、今後の博物館にとっての方向性を決める重要なことである。」

(檀ノ原館長)「細かい内容については、事業計画で説明資料を作成していく。現在、真田宝物館等の建て直しが検討されている。そうしたなかで、博物館の事業を見直し、宝物館と連携させ、検討していく必要がある。」

(ウ) その他

(宮下会長)「真田宝物館リニューアルの問題、施設の老朽化、収蔵庫の問題について。特に、真田宝物館のリニューアルは具体的にいつなるのか。」

(檀ノ原館長)「令和8年度に方針を決定、9年度に計画を立て、10年度以降着工する予定である。」

(宮下会長)「分館の維持などについては、どうする予定なのか。」

(檀ノ原館長)「博物館を地域の拠点として、集客ができるような施設にしていきたい。魅力ある博物館にするための検討を進めていきたい。」

(相澤委員)「作新学校については、修復の予算がついた。博物館では今後、こういった活用が見込まれるのか。」

(成田補佐)「作新学校は文化財課の所管である。直接協議したことはない。」

(檀ノ原館長)「地元の要望がありましたら文化財課を通じて協議させていただく。」

(峯村委員)「地域の神社、公民館等に引き継がれた資料の収集、整理はどのような形でやっているのか。」

(樋口主査)「全てを把握しきれていないが、調査は継続している。また、神社、公民館等が改修する際に、資料の確認を行うことがある。」

(峯村委員)「資料の調査については、地域側が依頼してくるのか。」

(樋口主査)「企画展の際に、博物館側から調査を依頼することもある。」

(峯村委員)「資料の調査を通して、有用性や評価をしていくことは重要である。」

(大串委員)「公文書館でも、区有文書レベルの資料を把握していないことがある。地域の各種団体との連携も必要となってくるのではないだろうか。」

(宮下会長)「資料収集について、定期的に公文書館、博物館、文化財課で会議を行っているのか。」

(大串委員)「公民館活動や区史を作成していくための、継続的な活動をしていくべきである。」

(宮下会長)「村や区に古文書群があっても、過疎化によって管理が難しくなっている。」

(檀ノ原館長)「資料の把握については、計画的に行っていく必要がある。」

(山貝委員)「博物館は、地域の住民にとってひらかれた場所でなければならない。ハード面の整備で検討されていることはあるか。」

(檀ノ原館長)「現在、真田宝物館や松代の施設など、リニューアルの話がでてい

物館においても、博物館単体ではなく公園の改修などの話に絡めて、来年度以降検討していかなければならない。」

(相澤委員)「戸隠の展示『田んぼとため池の生きもの』について、絶滅危惧種に焦点を当てているのか。」

(田辺研究員)「絶滅危惧種だけでなく、田んぼに生息する動植物を扱いたいと考えている。」

(相澤委員)「小学校で地域の先生をやらせてもらっているが、子ども達は田んぼの生きものや食物連鎖に関心をもっている。戸隠の展示について、PRを行ってきたい。」

4 その他(成田補佐)

資料(博物館再登録申請までのスケジュール)にて説明

5 閉会